二階の窓までのびたチユーリツプ

村山籌子

青空文庫

あるお家に　かあいいお猫さんがかはれてゐました。えりまきのかはりにも色の首輪をつけて、たいへんハイカラにみじまひしてゐました。

或日、お庭をさんぽしてゐると、とつぜん、目のまへの土がムクムクとふくれて、その中から小さい草の芽が　頭をだしました。お猫さんはそんなものを見たのは　はじめてでしたから、腰をぬかさんばかりにおどろきましたが、心をしづめて、「こんにちは、もぐらもちさん」といひました。草の芽は大さうおこつて「私、もぐらもちぢやありませんわ。チユーリツプといふ花の芽よ。」

猫は鼻のさきで　せせらわらつて、

「土の中から、ムクムク出て来るのは　もぐらもちにきまつてゐるさ。」といひました。

「いいえ。私、チユーリツプよ。私の咲かせる花は　あなたの首輪とおなじもゝ色だけれど、うつくしいことにかけては　もつともつとうつくしいの。」まけぎらひなチユーリツプは、ツンとすましていひました。

お猫さんは、おほわらひしました。

「もゝ色の首輪をしたもぐらもちなんて、ぼくうまれて　いちどもみたことないや。」

チユーリツプの芽は、腹がたつてもうがまんができなくなりました。

「ぢや、みていらつしやい、私がもぐらもちぢやなくて、チユーリツプだつてことを、たつたいまここでみせてあげるから。」さういつて、全身に力をいれました。ところが、あんまり力を入れすぎたので、みるみるうちにたいへんな、いきほひでのびました。またたくうちに屋根をこしてお二階のまどのところまで　とどきさうになりました。チユーリツプはびつくりしてやつとのことで、ふみとまりました。そして、そこで　それはそれは、うつくしいもゝ色の花をさかせました。

ちようどお二階のまどのうちで、あたゝかい日をあびて本をよんでゐた、本子奥さんは　去年の秋まいた、せいぜい一尺も大きくならないはずのチユーリツプが、屋根をこすほど長くのびてゐる　ふしぎな光景をみて、あつけにとられました。いくらかんがへても、そのわけがわかりませんでした。

本子奥さんは、家ぢうをかけまわつてさがしましたが、二階のまどのとゞくやうな長つたらしいチユーリツプをいけられるやうな花瓶は、みつかりません。皆さんはあるとおもひますか？　しかたなくはしごをかけて本子奥さんは屋根に上つて、チユーリツプのあたまだけとつて、小さい花瓶にさしました。

そんなわけで、お猫さんと本子奥さん以外には誰も背高のつぽのチユーリツプのことをしりません。皆さん、腹をたてて、むきになるとこんな珍妙なことがおこります。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
底本の親本：「コドモノクニ」東京社
　　1937（昭和12）年4月
初出：「コドモノクニ」東京社
　　1937（昭和12）年4月
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年7月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二階の窓までのびたチユーリツプ

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/